

当月のS&P MLP 指数の動き

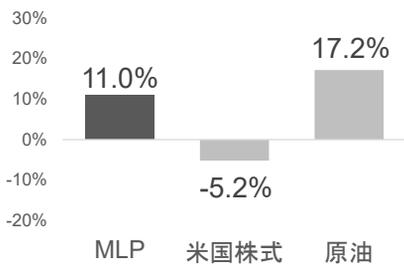
3月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+3.5%と4か月連続での上昇となりました。

上旬は、ロシアによるウクライナ侵攻を受け、欧米などによるロシア産原油の禁輸の動きを背景に原油価格が高騰する中、MLPは堅調な推移となりました。その後、中国における新型コロナウイルス感染再拡大による需要減などが意識され、原油価格が下落する中、MLPも下落基調となったものの、下旬にかけては、ウクライナとロシアの停戦協議進展への期待を背景に、米国株式市場が上昇基調となったことなどに支えられ、MLPも上昇しました。

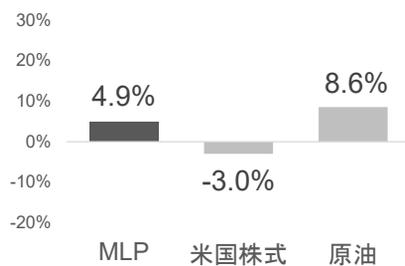
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

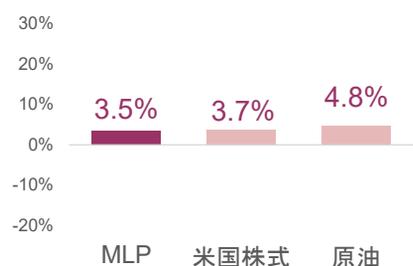
2022年1月



2022年2月



2022年3月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2022/3/31	2022/2/28	2021/12/31	2021/12/31			
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	5,416.07	5,235.41	4,495.14	4,495.14	3.5%	20.5%	20.5%
プライスリターン	1,267.58	1,225.95	1,071.99	1,071.99	3.4%	18.2%	18.2%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	9,527.46	9,186.37	9,986.70	9,986.70	3.7%	-4.6%	-4.6%
プライスリターン	4,530.41	4,373.94	4,766.18	4,766.18	3.6%	-4.9%	-4.9%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,207.12	1,107.84	868.26	868.26	9.0%	39.0%	39.0%
プライスリターン	581.93	534.95	422.74	422.74	8.8%	37.7%	37.7%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,881.56	1,766.08	1,959.66	1,959.66	6.5%	-4.0%	-4.0%
プライスリターン	405.76	382.90	425.81	425.81	6.0%	-4.7%	-4.7%
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,507.53	1,521.60	1,578.79	1,578.79	-0.9%	-4.5%	-4.5%
プライスリターン	72.44	73.46	76.94	76.94	-1.4%	-5.9%	-5.9%
米国10年国債利回り	2.34%	1.82%	1.51%	1.51%	0.52	0.83	0.83
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり	100.28	95.72	75.21	75.21	4.8%	33.3%	33.3%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	5.64	4.40	3.73	3.73	28.2%	51.3%	51.3%
米ドル(対円)	121.70	115.00	115.08	115.08	5.8%	5.8%	5.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 2日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスの会合では、4月も従来の増産(協調減産の縮小)ペースを継続することが決定された。
- 4日、ウクライナにある欧州最大規模の原子力発電所の一部施設で、ロシア軍の砲撃により火災が発生した。その後、火災は鎮火されたが、同原発はロシア軍によって制圧された。WTI原油先物価格は3営業日連続で上昇し、8日に1バレル=123米ドル台と、2008年8月以来の高値で引けた。
- 9日、UAE(アラブ首長国連邦)がOPECなどに原油の増産を呼びかけたことを受け、WTI原油先物価格が前日比-12.1%と急落し、108米ドル台で引けた。
- 13日、ロシアとウクライナの当局者らは、両国間の交渉が進展し、数日以内に何らかの成果が出る可能性に言及した。また、中国での新型コロナウイルスの感染拡大もあり、14日に原油価格が大きく下落し、WTI原油先物価格は103米ドル台となった。
- 17日、ロシア大統領府の報道官が、ウクライナとの停戦協議が大きく進展したとの報道は誤りだと述べたことを受け、WTI原油先物価格は大きく反発した。
- 28日、新型コロナウイルスの感染再拡大が続く中国の上海市で事実上のロックダウン(都市封鎖)が始まったことを受け、需要減少懸念が広がったことから、WTI原油先物価格は大きく反落した。
- 31日、OPECプラスは、原油の増産(協調減産の縮小)ペースを5月も維持することを決めたが、バイデン米大統領が、戦略石油備蓄を向こう半年で計1.8億バレル追加放出すると発表したことを受けて、原油先物は急反落し、WTIで1バレル=100米ドル台となった。

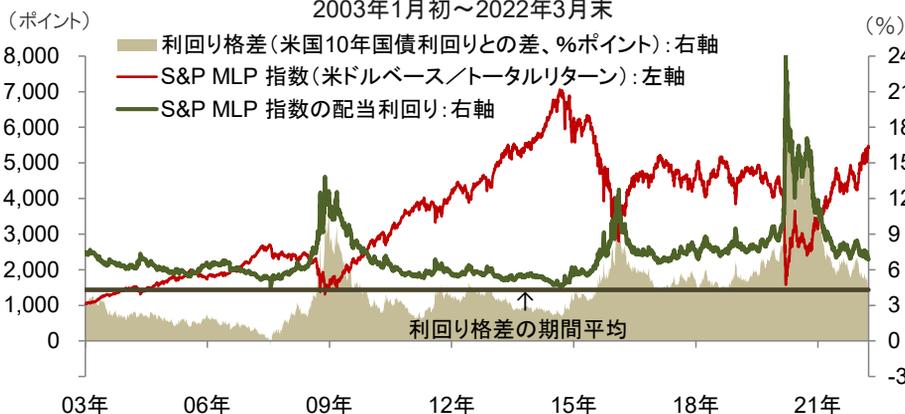
今後の注目点

- 4月から、2022年1-3月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

MLPの利回り水準

FRB(米連邦準備制度理事会)議長がタカ派(金融引き締め積極的に)発言をしたことなどを受け、米長期金利は上昇基調を強め、3月25日に10年国債利回りが2.47%まで上昇しました。原油価格の高騰などを背景に、MLP価格は上昇基調となっており、MLPの配当利回りと米10年国債利回りの差は、足元で縮小しているものの、いまだ、2003年以降の利回り格差の平均を上回る水準です。

<S&P MLP、指数と利回りの推移>
2003年1月初～2022年3月末



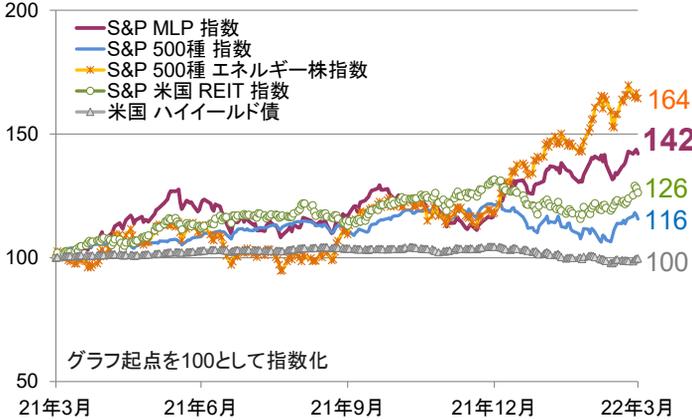
<2022年3月末時点の各数値>

①	S&P MLP 指数の配当利回り	6.93%
②	米国10年国債利回り	2.34%
③	利回り格差(①-②)	4.59%ポイント
④	利回り格差の左記グラフ期間平均	4.30%ポイント

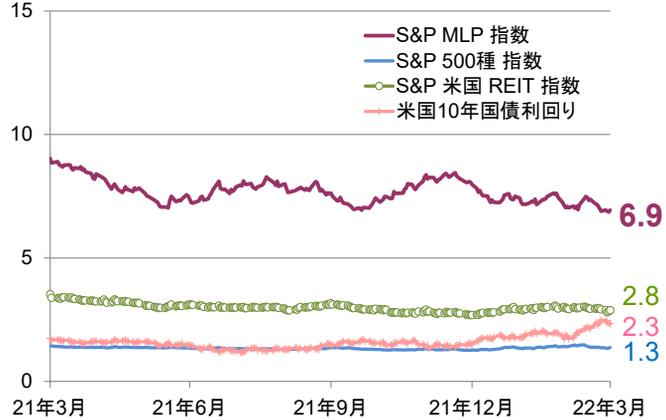
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)
(2021年3月末～2022年3月末)



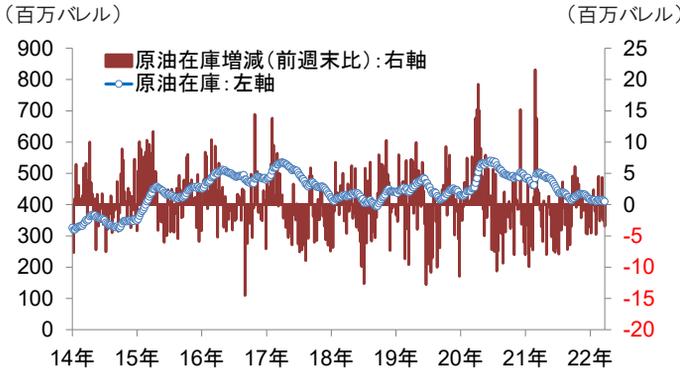
■過去1年の各資産の利回り
(2021年3月末～2022年3月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

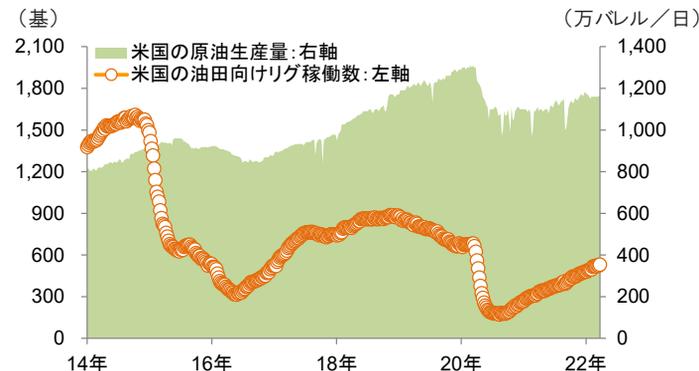
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年3月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年3月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2022年3月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。